

## 平成28年度第1回伊勢地区地域審議会会議概要

- 1 開催日時 平成28年10月4日(火)午後7時00時～午後8時20分
- 2 開催場所 伊勢市役所東庁舎4-3会議室
- 3 議事内容 (1) 辞令交付  
(2) 委員自己紹介、事務局紹介  
(3) 正副会長の選出  
(4) 第6期地域審議会について  
(5) 情報交換
- 4 出席委員 中村基記委員、櫻井治男委員、杉山謙三委員、山中一孝委員、  
前田政吉委員、杉田英男委員、北村和也委員、馬瀬清美委員、  
竜田和代委員、岡田 満委員、岡本忠佳委員、野村誠一委員  
中谷 進委員、伊藤 弘委員、
- 5 欠席委員 村田典子委員、大木健司委員、前島 賢委員、浦田宗昭委員、  
佐久間泰子委員、鈴木 久委員
- 6 出席職員 情報戦略局長、企画調整課長、同課長補佐、同課係員
- 7 議事概要

(1) 辞令交付 情報戦略局長から出席委員へ辞令交付。

(2) 委員自己紹介、事務局紹介

(3) 正副会長の選出

事務局 地域審議会を設置することに関する協議の規定により、正副会長は、委員の互選により定めることとなっている。ご協議をお願いします。

委員 事務局に一任したい。

事務局 これまでの経過もあることから、第5期に引き続き、櫻井委員に会長を、浦田委員に副会長をお願いしますという案はいかがか。

(委員から「異議なし」の声多数あり。)

事務局 それでは、会長に櫻井委員、副会長に浦田委員と決定させていただく。

(4) 第6期地域審議会について

事務局より、資料「地域審議会について」及び「地域審議会を設置することに関する協議」に基づき、設置期間の延長、地域審議会の役割、会議の開催方法等について説明。

### 【質問】

●任期2年で設置期間を5年間延長すると説明があったが、最後の1年はどうなるのか？

→任期が2年と定められているので、最後は1年のみと考えています。

●地域審議会の設置は強制的なものなのか？

→強制ではないので、全ての市町で設置されているものではない。

●期間の途中で、解散することはあるのか？

→無いと考えている。本市については、延長した。

(5) 情報交換(各委員からの発言要旨を適宜集約の上記録)

- 新市建設計画に記載されている資料の内容が古い。  
→新市建設計画は、合併時に策定されたものであることから、その時点における数値等が記載されている。昨年度に計画期間の延長等を変更した際には財政関係の数値を更新しています。本計画は、市町村合併時の思いを残すものになっており、理念を継続しつつ、施策展開は、新市になってから策定した総合計画に反映し、実行しています。
- 学校統合の関係で動き出したのに、遅れている地区がある。病院建設の予算増の関係か？  
→少子化が予想以上に進行したことにより、1学年2学級以上の適正規模を確保するための統合のあり方等を検討している関係と伺っております。
- 保育期間を統一しなかったことにより、一部の園が廃止となった。市内の地区ごとの情報の共有化がすすんでいない。まちづくり協議会の体制が整備されたのであれば、情報共有する場を多く作って欲しい。
- 合併協議会そしてこの地域審議会に最初からかかわっているが、10年経って改めて新市建設計画を見るとずいぶん策定時と取り巻く環境がかわったなど感じる。
- 自治会関係でも、各地区における幼稚園や学校、まち協などへの意見を聞くが、各地区同士の情報の共有が不足しているように思う。自治会としても言いっぱなしに終わるのではなく、優先度に強弱をつけて意見等をしたいと思う。
- 新市建設計画を作ったときの想定した数字が今どうなっているのか知りたい。効率化による集中化により、地域の個性がなくなっていくのは良くないので、人口減と向き合いながらも地域のよさを残す取り組みを行うべき。
- 合併後、急速な農業の衰退を見る。特に宮川右岸側の担い手不足が顕著である。伊勢市として観光だけでなく、農林水産業をもっと見て欲しい。  
また過度なコンパクトシティの取り組みは、コミュニティを壊してしまう。
- 発展に不平等感がある。良いところは共有して市全体で均衡に発展して欲しい。  
また、小俣はユニチカ跡、大仏山等造成が目立つ。旧伊勢地区においても宅地の造成が進めばよいと思う。
- 旧伊勢地区においては、高齢化が目立つ。旧小俣地区は若い子が多い印象。  
何を進めるにしてもリーダーシップを発揮する担い手が減っていると思うので、育成に取り組むべき。
- 出会いの場を増やす取り組みを行っており、今まで少なかったが、40歳以上の出会いの場も取り組んでいきたい。私もまち協の取り組みを行っているが、他の地域の取り組みがわからない。
- 消防庁舎が移転したが、救急車等の到達時間の変化など、合併後の取り組みによって今までとどのように変化したかの情報が発信されると良い。

以 上